定例研究会について

石川秀勇

はじめに

研究会担当のスタッフに指名されたのは確か2004(平成16)年のこと。それから2010(同22)年頃までの約6年、鋭意この取組みの推進に関わらせていただいた。東日本大震災のあった2011年以降は、研究会の持ち方も通常状態とは違った対応がされるようになっており、さしたる役割を果たしてはおらず言うべきことを持たない。そこで、ここでは上記の6年ほどの間でのことをサマリーすることで、主題についての記述としたい。

山崎農研では2000年に「Q＆A 2000」のリーフレットを作成している。この中で、調査・研究の活動等の対象について述べ、「農村社会」「農村文化」「農業、地域環境」「技術の開発」「国際的な技術協力」「現場での優れた実践」など、いわばキーワードを記している。研究会では幅広くテーマ設定に努めてきたと振り返えるが、このキーワードが無意識のうちにも頭にあったように思われる。

計画は年度の総会での決定を踏まえ、開催は年に4～5回。うち1回は現地(地方)に出向いて実施する、国際協力関係を1回程度折り込む、等を基本として具体化立案に努めた。

定例研究会

新宿での本部の会議室での通常の研究会。毎回、同じテーマの下で複数者より話題提供をお願いしたが、ここでは各年の1事例から1者のみを記させていただこう。

○第115回《2004.12.10》
「栃木の小麦を介した地産地消運動による地域おこし」
笠原健一(笠原産業・社長)

○第119回《2005.12.3》
「高校農業教育の現況
――多様なコース設定等と目指す方向――」
福島実(群馬県教育委員会指導主事)

○第123回《2006.12.9》
「風土を生かしキムチで起業」
丸山みち子(丸山農園 漬物本舗、群馬家嬬恋村)

○第127回《2007.12.8》
「都市化地域における果樹経営と課題」
飯沼俊和(牧の原梨園・経営主、松戸市)

○第128回《2008.3.1》
「稲作と砂糖産業の変革の方向」
山崎耕宇(会員、東大名誉教授)

○第132回《2009.2.28》
「弥生時代の農耕文化と食」
大谷弘幸
(財団法人山武郡文化財センター、千葉県)

○第139回《2010.12.11》
「安全・安心こそいのち――牛飼い雑記」
峰村富治(会員、長野県上田市)

定例(現地)研究会

別表に2004年から2010年までの6年間の現地研究会の概要をまとめた。現地の方に数多く話題提供をお願いしたが、そのお名前はここでは略させていただいている。

(いしかわひでお＝山崎農研幹事)